

ダムと治水を考える研究者グループ
上野鉄男（京都大学・防災研究所）
高津正秀（大阪府立大学・材料工学）
高田直俊（大阪市立大学・土木工学）
中登史紀（中技術士事務所・土木技師）

要請書

前回、第7回流域委員会で示された河川整備計画（中期計画）は、表1および図1に示すように、ピーク流量の計算においてS49工事実施基本計画（長期計画）との整合性が全くとれていない。図中の2点を結んだ線は、旧近畿地建に資料請求したハイドログラフ（実績、計画）から読み取った点を結んだものであり、点なしの線は、流域委員会資料にあるS34.9の2日雨量の0.8~1.2倍に伸縮した降雨パターンからの計算値各5点を結んだものである。同一計算条件で計算されている限り、それぞれ同色の線は重ならなければならないのに、図に示されるように大きくずれている。しかも、平行にずれていたり、傾きが大きく違っていたりする。

河川整備計画（中期計画）における工事実施基本計画（長期計画）との整合性は、中川委員長も強調されている重要な問題であるので、これらの違いが理解できるよう、それぞれの計算条件の詳細を明らかにして頂きたい。

表1 長期計画（S49工事実施基本計画）と中期計画（現河川整備計画）の船戸でのピーク流量の比較
（単位：m³/s）

降雨	実績 2日 雨量	長期(工事実施基本計画)		中期(現河川整備計画)					実測 流量
		実績降雨 で計算	計画降雨で計 算(440mm)	S34.9実績2日雨量に対する倍率()内は2日雨量)					
				0.8(250)	0.9(282)	1.0(313)	1.1(344)	1.2(376)	
S28.9	305 mm	8620	11602	5920	7240	8510	9790	11130	7800
S34.9	313 mm	7820	12922	7340	8650	9970	11330	12710	5870
S36.9	223 mm			6750	8420	9830	11430	13200	3430
S47.9	186 mm	5860	15775	7770	9720	11660	13770	15830	5780

ここでは、典型的なピラミッド型（台風型）の降雨のみを対象とした。

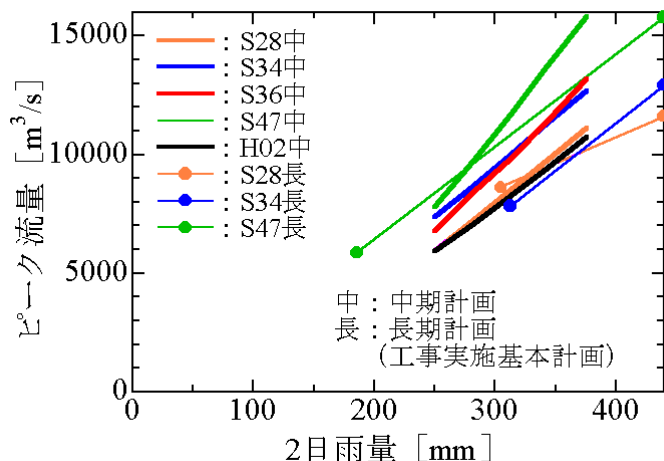


図1 流域平均2日雨量および引伸ばし率と船戸ピーク流量の関係